

神経精神医学教室（精神医学）

脳科学研究戦略推進プログラム(脳プロ)

うつ病の異種性に対応した
ストレス脆弱性
バイオマーカーの同定と
分子病態生理の解明

病因・病態研究

- 神経発達学的研究
- 脳構造画像研究 (MRI)
- 脳機能画像研究 (SPECT・NIRS)
- 神経生理学的研究 (MEG)
- ワキシングメモリーとオレシジョン (MRS共同プロジェクト)
- 報酬系とGABA
- 自閉症スペクトラムにおける家族教室の効果
- 特別支援教育における教師の自己効力感
- 質問紙表による睡眠衛生指導介入

治療研究

- 認知行動療法の効果に関する脳画像を用いた研究
- 電気けいれん療法の効果検討
- 統合失調症の薬物療法
クロザピン治療の臨床研究
副作用・作用機序・遺伝子など
- うつ病薬物治療の強化療法
うつ病の血管性要因に注目し
脳循環改善による回復を促す
- 経頭蓋磁気刺激 (TMS)

研究室

テーマごとに柔軟に研究
チームを組むプロジェクト
方式で幅広い分野の研究

臨床研究中核病院整備事業

バーチャルメガホスピタルの確立による精神
疾患・がんの新規診断・治療法の開発

- ④ マルチモダリティ脳機能画像を用いた精神疾患の病態解明
および診断ツールの開発

主宰・参加している主な研究・他施設研究

脳プロ・課題F「うつ病の異種性に対応したストレス脆弱性バイオマーカーの同定と分子病態生理の解明」
臨床研究中核病院整備事業「バーチャルメガホスピタルの確立による精神疾患・がんの新規診断・治療法の開発」
④ マルチモダリティ脳機能画像を用いた精神疾患の病態解明および診断ツールの開発」
厚生労働科学研究「NIRSを用いた精神疾患の早期診断についての実用化研究」
新学術領域「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」

研究成果の出版

『精神疾患診断のための脳形態・機能検査法』(新興医学出版社, 2012)
『NIRS波形の臨床判読ー先進医療「うつ症状の光トポグラフィー検査」ガイドブック』(中山書店, 2011)

大学院への入学方法

研修終了後1年間(卒後3年目)は精神科臨床
研修を重点的に行い、2年目(卒後4年目)から
大学院に入学し研究に従事する。

社会人大学院を選択し日中に診療に従事すると、
大学院の期間も右記資格を取得するための臨床経
験期間に含まれる。

大学院終了後の進路

希望に応じて相談のうえで決定する。

- ① 群大病院の医員として診療・研究
- ② 臨床研究部のある国立精神科病院で常勤
- ③ 総合病院精神科や精神科病院で常勤
- ④ 留学

大学院生の実態

大学院生は6名在籍。
研究は原則として週5日行う。研究時間は研究
内容に応じて決まる。生活費は、奨学金、週1日
の精神科病院での日勤勤務、および夜間や土日
曜の当直により、十分確保できる。

精神科 の資格

日本精神神経学会専門医
(研修2年+精神科3年で試験)
精神保健指定医
(研修2年+精神科3年でレポート)

問合せ

福田 fukuda-psy@gunma-u.ac.jp
青山 yaoyama@gunma-u.ac.jp